

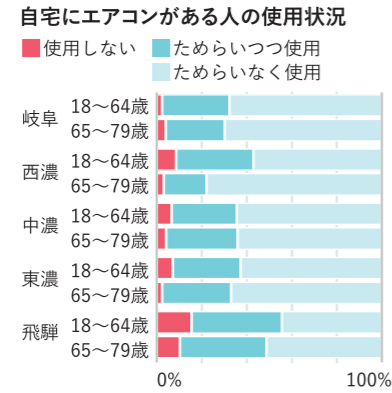
寒冷地でも夏の意識を変えよう

この10年でエアコンを設置した飛騨の世帯が2倍に。
若い人たちも熱中症にかかっています。

エアコンは普及しているが、地域差があり、
使用することにためらいを感じる声も。



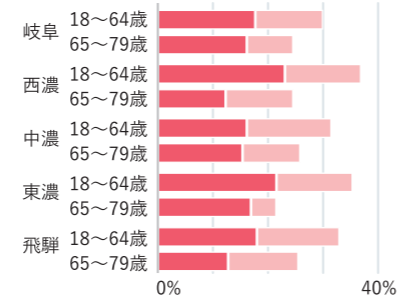
直近10年のエアコンの導入が進んだ地域ほど赤く表示。寒冷地の飛騨でも夏を暑く感じています。



20・30代の4人に1人が熱中症に。
地域差はほぼなく、岐阜の誰もが熱中症のリスクを負っていることが分かりました。

自分または家族が熱中症になったことがある？

■自分になった ■自分はないが家族になった



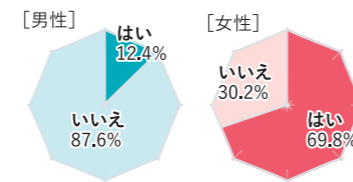
日傘の良さを再発見！

初めて日傘を使った男性にも好評でした。

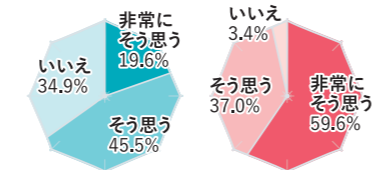
「とても涼しく感じた」または「涼しく感じた」人は96%

岐阜県可児市のぎふ・ワールドローズガーデン(旧花フェスタ記念公園)で、来園者に日傘を貸し出し、意見を集めました。普段から日傘を使う男性は12%でしたが、利用してみて「今後も利用したい」という男性は65%に達しました。女性も97%が「今後も利用したい」と回答。一方、日傘を利用したくない理由の多くは「荷物になるから」でした。

普段から日傘を利用していますか？



今後も日傘を利用したいですか？



温暖化と岐阜のくらし

～岐阜の人に聞いてみました～

みんなが日々感じる

温暖化の変化とは？



10年後には

岐阜を代表する

食材が身近ではなくなるかも？



温暖化で、岐阜県の特産品 富有柿の鮮やかな色がなくなる？

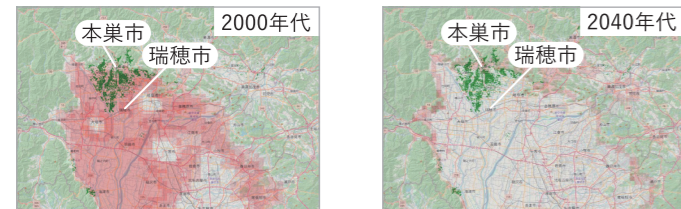
富有柿は、秋の気温が低下することで着色することから、今後、残暑の厳しさが増すと、美味しさには大きな影響がないものの、特徴である鮮やかな紅色が薄くなる可能性があります。

こんなことがわかってきました

富有柿の産地・本巣市や瑞穂市などの気候は、元来柿づくりに適していました。柿は「9月の平均気温が21～23度」だと緑色の成分「クロロフィル」が薄くなり、橙色の成分「カロテノイド」を濃くします。温暖化が進んだ2040年代の9月には産地のほとんどがこの温度を超える予測があり、柿の紅色の着色が薄くなる可能性が高いのです。



■現在の富有柿産地 ■柿の栽培に適した地域



現状の富有柿の栽培に適した土壌と気温の土地を赤く表示。実際の栽培地域(緑色)と重なります。

2040年代の気温予測では富有柿の栽培に適した土地は激減します。

柿農家のみなさんの声

昔と比べて、富有柿の色が薄くなる年が増えてきた

富有柿栽培を続けていきたいが、高温による影響が心配



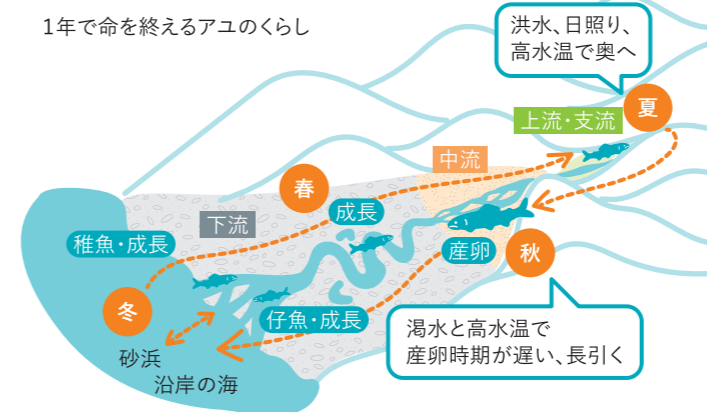
対応を考えるヒント

柿の色が薄くなっても食味にほとんど影響がないため、出荷時の着色基準の見直しや、富有柿よりも早い時期に収穫ができる品種への移行などの対応が必要です。長期的には、温暖化に適した亜熱帯果樹等の導入の検討が考えられます。

岐阜県が誇る長良川のアユが 温暖化で大きく育たなくなる？

洪水の増加、夏場の渇水と高水温でアユの産卵時期がすでに遅くなってきています。翌年の遡上も遅れ、大きく成長するアユが減る可能性があります。

1年で命を終えるアユのくらし



アユが成長・産卵する長良川の中・上流域120kmの本川と支川で、水に含まれるアユの粘膜やフンなどのDNA濃度からアユが今いる場所を推測。水温や水量に応じてアユが大きく移動することがわかりました。温暖化が進むと、夏場は水温が低い上流や支流に移動するため、水温が高い漁場では、夏にアユがとれなくなる恐れがあります。

対応を考えるヒント

アユの生育に適した流域の自然環境を大事にする必要があります。支流から冷たい水が安定して流れこむこと、本流と支流をアユが自由に移動できること、アユが産卵しやすい中流から下流の環境を守るなどが考えられます。

こんなことがわかってきました

魚は1℃の水温上昇でも大きく影響を受けます。アユは、夏に高温や洪水の濁流を避け、より上流や支流に避難しているとみられます。10月、水温が18度以下の水位が高い日に川を下り産卵しますが、その時期がずれてきています。

川漁師さん・ 鵜飼の鵜匠さんの声

上流域の郡上市ではアユの友釣りができる期間が昔より長くなっている。

中流域の岐阜市では夏場のアユが減っている

